



「心地よい学級・授業とは？」

- 教室に入った瞬間、目に見えないその学級独特の雰囲気（空気）が伝わってきます。明るい雰囲気で落ち着きのある学級、重苦しい空気が漂っている学級……。また、授業参観をしていると、楽しくて一緒に参加したいと思う授業、退屈で時間が長く感じる授業などがあります。子どもたちの教師に対する評価は、正直で厳しいです。授業が楽しくなければ、集中力がなくなり上の空になります。あるいは、教室から飛び出してしまふ子どもがいるかもしれません。これまでの授業参観を通して、心地よい学級・授業であると感じたことを紹介します。

○教室に入りやすい空気、安心できる雰囲気がある

⇒違いを尊重し、認め合える雰囲気がある（みんなちがって、みんないい！）

⇒間違いや分からないことに対して、助け合う風土がある（間違いから学びが始まる）

○基本的な学級のルールが明確で、子どもたちの学習習慣が定着している

⇒言葉遣い、発表の仕方、ノートの取り方等が定着している

⇒「人の振り見て、我が振り直せ」が成立している

※子どもの返事の声が小さかったり、していなかったりすると、やり直しをさせる場面がある。うまくできたときに、すぐ評価することが定着につながる。注意で終わらない！

○教室・学習環境が整っている（ドキドキ感よりも安心感）

⇒黒板付近の掲示物が精選されている（必要な情報を必要なだけ提示する）

⇒見通しがもてるスケジュール（月・週・一日・1時間の授業等）が提示されている

○子どもたちが互いの話を聴いて、反応している

⇒友達や教師の話にうなずきや相づち等、体で聴く姿勢が見られる

⇒教師が雑音になっていない（言葉を減らす、非言語を有効に活用する、怒鳴らない）

○教師が子どもの頑張りを認めたり、ほめるたりする回数が多い

⇒言葉やアイコンタクト等、一人一人の子どもの特性に合った認め方をしている

※子どもの行動を当たり前としないで、「今日も登校してくれてありがとう」を口癖にする

○教師が一方的に話すのではなく、子ども同士の学び合いができています

⇒特定の子どもとの一問一答形式ではなく、グループ活動、ペア活動等、学習形態を工夫している（教え込む授業からの脱却）

⇒子どもが自己選択・自己解決できる場面を多く設定している

○板書を見ると、授業のねらいが一目で分かる

⇒本時のめあてや流れが板書されている

⇒本時のキーワードやヤマ場が分かるような板書になっている

○教師が明るく、表情豊かである

⇒よい言葉を笑顔で伝えることで、子どもの安心感につながる



「心地よい学級・授業づくりの充実度は、子どもの表情や言動に表れる」